

14才♡
パパはなんでも知っている



小林深雪

小林深雪 (こばやし・みゆき)

講談社X文庫

1964年3月10日生まれ。うお座のA型。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。在学中より音楽誌を中心にライター活動を開始し『ガールフレンドになりたい!!』で小説家デビュー。10代の少女たちの圧倒的支持を集めている。小説以外の著作物にエッセイ集『ささやかだけど大切なこと』(講談社)やCD『ロマンティック・サムシング』(東芝EMI)などがある。また、雑誌に映画や音楽のコラムを執筆、漫画の原作も手がけるなど幅広い分野で活躍中。



14才♡パパはなんでも知っている

小林深雪

●

1994年8月5日 第1刷発行

定価はカバーに表示してあります。

発行者——野間佐和子

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-01

電話 編集部 03-5395-3507

販売部 03-5395-3626

製作部 03-5395-3615

本文印刷——図書印刷株式会社

製本——株式会社若林製本工場

カバー印刷——半七写真印刷工業株式会社

デザイン——山口 馨

©小林深雪 1994 Printed in Japan

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えます。なお、この本についてのお問い合わせは文芸局文芸図書第四出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-199296-1

(文4)

講談社 X 文庫

14才♡パパはなんでも知っている

：

小林深雪

14才♡パパはなんでも知っている

CONTENTS

3枚のフォトグラフ.....	6
ピンキッシュ・スプリング.....	12
彼は友達.....	45
年下の男のコ.....	72
フィアンセ現るー.....	88
恋のアドバイス.....	107
放課後の訪問者.....	124

デートは日曜日……	139
涙のプレゼント……	155
電話を切らないで……	173
パパはなんでも知っている……	184
ゴールデン・サマー……	204
あとがき……	210
ガールフレンドになりたい!!……	228

イラストレーション／まきむらくみ牧村久実

14才♡パパはなんでも知っている

3枚のフォトグラフ

わたし、高野沙保^{たかのさほ}。

この4月に、中学2年生になるんだよ。

まずは、みんなに、わたしのアルバムを初公開！

最初に、1枚めの、この写真を見て！

これが、わたしの家族です。

わたしの家は、パパとママとわたしの3人家族。

パパとママは、大恋愛のすえ、なんと（！）、ママが高校生、16歳のときに結婚したの。
ふたりのロマンスは、わたしの憧れ^{あこが}なんだよ。

そして、ママが19歳のとき、わたしが生まれたってわけ。
どう？

ふたりとも若くて、なかなか素敵^{すてき}でしょ？



2枚めの写真は、ちよつぴりテレくさいけど。

でも、みんなに見せちゃおう！

じゃーん。

これは、去年のサマー・キャンプのときの写真。

わたしの隣となりにいるのは、クラスメイトの広岡惣一郎ひろおかそういちろうくん。

ふたりで一緒にサマー・キャンプの実行委員をしたの。

それで、すごく仲良しになれたんだ。

広岡くんは、頭の回転が速くって、とっても誠実な男のコ。

わたし、広岡くんのこと、けっこう気になってただけど……。

でも、広岡くんは、わたしのママに憧あこがれてたことが判明しちゃったの！

ママがライバルなんて、信じられない！

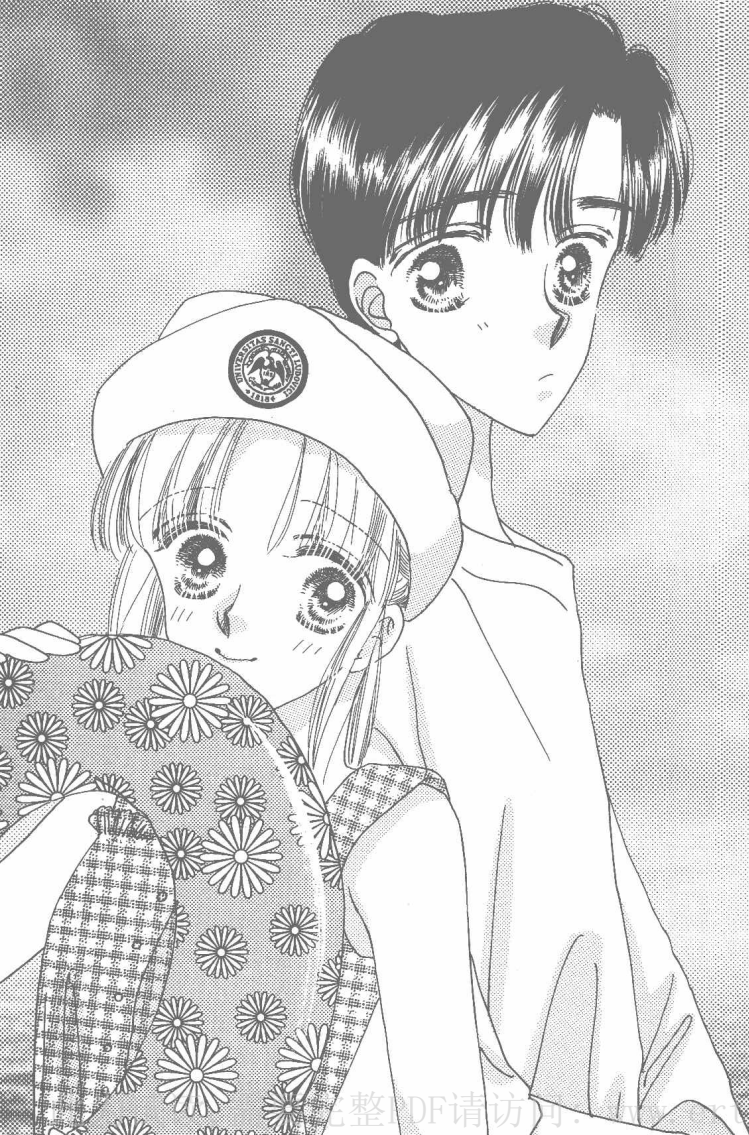
なーんて、いろいろ、ゴタゴタもあつただけど。

でも、その後、わたしと広岡くんの仲は、少しだけ接近（？）。

なんだか……。

このまま、もっと仲良くなれそうな、そんな予感もしてる。

中学2年の春なんです。



そして、3枚めの写真が、問題のこいつ。

なかなかの美形ひげいで大人おとなっぽいでしょ？

スラリと伸びた長身。

ヘタすると、高校生に見えちゃうかもね。

でも、わたしより年下。

これで、実は、まだ、中学1年生なんだよ。

信じられないでしょ？

彼の名前は、有末忍ありすえしのぶ。

わたしのおさななじみ。

こいつが小学校2年のとき、お父さんの転勤てんきんで、北海道ほっかいどうへ行っちゃって。

この春、5年ぶりで、東京に戻もどってきたんだ。

そして、なんと、彼は――。

パパとママの親友、理沙りささんのひとり息子なんだ。

わたしの初恋が。

こいつが東京に戻ってきたおかげで、ぶちこわしになるなんて！

わたし、思ってもみなかったんだ――。



ピンクシユ・スプリング

「沙保。ほら、ツバメが飛んでる」

「わあ、ほんとだあ」

沈丁花の甘い香りがする。

淡いピンクの桜の花びらが、風に舞ってる。

まるで、春の雪みたい。

水色の空を見上げながら。

わたしは、しばらくの間。

桜吹雪の中。

空を泳いでくツバメを眺めてた。

毎年、春になると、なんだか、そわそわしちゃう。
厚手のセーターは、もういらないね。

暖房のスイッチもオフにしよう。

3月のカレンダーを1枚めくっただけなのに。

ほら、不思議。

4月になったら、まるで、おもちや箱をひっくりかえしたみたい。

突然、街がカラフルになったよ。

ピンクや白や黄色や赤や……。

木々や花壇には、いつせいに花が咲きみだれて。

街を行くひと、みんな、明るい春の色に着替えてる。

ほら。

道端には、お日さま色のたんぽぽが咲いてる。

チョウチヨはチューリップにキスしてる。

たくさん色彩が、街じゅうに溢れて。

大好きな春が、本格的に始まったね。

SPRING HAS COME—。

今日は、春休み最後の日。

明日から、新学期が始まる。

わたしも中学2年生。

ちょうど午後のお散歩に出たところ。

隣となりにいる背の高い男のひとは……ボーイフレンド！

じゃなくって、残念なことに（？）、わたしのパパ。

パパは、背が高くて、スラッとスマートで。

オシャレで洋服の着こなしもうまいし。

わたしの友達のパパのなかでも、群ぐんを抜いてのベスト・ドレッサー。

パパは、若くして結婚したから。

まだ、ギリギリ30代だし。

一緒にいたら。

ほら、まるで、お兄さんみたいでしょ？

わたしの自慢じまんのパパなんだ。

そんなパパと腕をからませたりしてね。

知らないひとが見たら、恋人同士に見えたりして？
なーんて。

そんなこと考えると、わくわくしちゃう。

「ほら。沙保、こっちも見てごらん」

パパが指さした先は、近くの家の軒下。

「わっ」

ツバメの巣！

その巣の中からは、ちいさなくちばしが、いくつも覗いてる。

「パパ！ 巣の中にツバメのヒナがいるよ！」

わたし、少し興奮して声をあげちゃう。

「あ、親鳥が巣に戻ってきた」

パパの言葉に、また空を見上げると。